

日本シリーズは制覇できなかったものの、日本ハムのパシフィック・リーグ優勝を予想できた職業的評論家は皆無であった。主戦投手ダルビッシュが移籍したことも原因であるが、七年の現役時代は病気の影響もあって低迷し、それ以後は試合の解説では定評があったが、長年、現場から遠離っていた栗山英樹監督の就任という意外な人事の成果を見極められなかったからである。

しかし、栗山監督の成功を暗示する小説と映画がある。アメリカの実話小説『マネーボール』(二〇〇三)と、それを原作とする映画『マネーボール』(二〇一)である。野球選手としては十分な活躍はできなかったが、弱小球団オークランド・アスレチックスのジェネラル・マネージャーとなったビリー・ビーンが数理統計を駆使する若者ピーター・ブランドの分析をもとに選手を補強し、球団を飛躍させる実話である。

その理論が「セイバー(SABR)メトリクス」で、過去の試合の膨大な記録を分析し、それまでの経験重視の野球から数理重視の野球を目指すために開発された理論である。一例として、これまで打者の能力は単打も長打も同一とみなす打率で評価され、四球は対象とされなかったが、セイバーメトリクスでは出塁という観点では同等に計算するどころか、四球を評価している。それは投手の球数を増加させるからである。

この理論を基礎に阪神タイガースが開発したのが「ベースボール・オペレーション・システム(BOS)」であるが、阪神は現場の反対で利用できず、それを開発した人材ともども導入して利用したのが日本ハムであった。それを象徴するのが中田翔外野手の起用である。前半では打率一割前後の四番打者を栗山監督が一貫して使用したのは、温情ではなく、単打よりも長打に価値があるという理論を忠実に実践した結果である。

長々と野球の話題を紹介したのは、最近、注目されてきた「ビッグデータ」の好例がBOSだからである。これは大量の情報という意味であるが、桁違いの大量である。アメリカのオークションサイト「イベイ」は一日に一〇〇ペタ(一〇の一五乗)バイトの情報を処理し、同様に「グーグル」は一日に二〇ペタバイトを処理し、ツイッターでは一日に八テラ(一〇の一二乗)バイトの情報が発信されているという具合である。

そのような情報を処理することによって、想像もできなかった現象が発生する。カリフォルニアの都市サンタクルーズでは警官の人数が不足して十分に犯罪に対応できない。そこで都市全体を一辺一五〇mの格子に分割し、それぞれの格子で過去八年間に発生した犯罪の種類、時刻を分析した。その情報をもとに、犯罪の発生確率が高率な地域と時間に、あらかじめ警官を配置しておいたところ、検挙比率を大幅に向上した。

「フライトキャスター」というサイトでは、航空会社、便名、出発都市、到着都市を入力すると、定時に到着する確率、六〇分以下の遅延の確率、それ以上の遅延の確率が即座に表示される。過去の運行情報、気象条件、混雑状況などを分析した成果である。「フルトレンド」というサイトでは、世界各国のインフルエンザの流行の程度が地図に表示されている。グーグルへのアクセスのなかの、インフルエンザという単語の回数を国別に計数した結果である。

便利な社会であるが、問題もある。分析対象となるのは、インターネット経由で送受される情報が中心であるが、それ以外に、スマートフォンが自動で発信する位置情報など、本人の意志に関係ない情報も自動収集され分析対象となる。ジョージ・オーウェルが半世紀以上に警告した「ビッグ・ブラザー」の登場が危惧される。それを回避しながら恩恵を享受する制度の構築が急務である。